

令和5年12月

令和5年度現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業
第2回評価検討委員会協議事項

岐阜女子大学

＜評価委員の皆様からのご回答＞

協議1 小中連携教育コーディネータの必要性について

中学校実務経験3年目以上の教員が新たに小学校教諭二種免許状の取得を目指す場合、小中連携教育コーディネータの資質能力を中心とした小学校の養成課程の内容を学修することにより、小中連携の教育をスムーズに実施することができると考えています。そしてそのような学修を実施した人材を「小中連携教育コーディネータ」として位置づけ、新たなキャリアとしていく方向性を考えました。この「小中連携教育コーディネータ」の必要性について、委員のご意見等をお聞かせください。

【資料】

- ・小中連携教育コーディネータ概論（p.6-7）
 - 第2講 小中連携教育コーディネータ
 - 1. 小中連携教育コーディネータ

【回答】

沖縄県においては、小中連携を市町村教育委員会の主導で推進していることが多い。

小中連携に取り組む学校の中には、校務分掌のひとつとして「小中連携担当」を設けている学校があり、主に、小中連携に関する取組の企画・立案や、学校間の連絡調整にあたっている。また、市町村によっては退職教師を小中連携コーディネータとして雇用し、非常勤という身分で業務に就かせている場合もある。

本県における小中連携の取組は、多くの場合、大規模な教育課程の変更を伴う「小中一貫」ではなく、学校間の相互理解や授業観の共有などといった交流が中心であるため、現時点において小中連携担当に求められる資質・能力としては、会議の連絡調整や資料づくり、情報交換の場の設定など、取組を円滑に進めるための事務処理や、学校間、職員間を繋ぐコミュニケーション能力が特に重視されていると考えられる。

しかし、近年、学校現場から、小中連携コーディネータの資質向上を求める声が聞かれるようになってきている。小中連携の意義や必要性を実感し、交流レベルを通過した学校や教員にとって、次の段階は、小中の発達段階や系統性を踏まえた教科等の指導の充実や、それを計画的に実施し将来にわたって持続させていくために必要な教育課程の見直しなど、カリキュラムマネジメントに関することになると考えられる。ところが、本県は小中の人事交流はあまり行われておらず、小中双方の教育課程を、実際に教えたことがあるなどという実感をもって理解している人材は少ない。小中連携を校内にあって推進できる人材は貴重であり、その養成に教員の養成や育成に実績のある岐阜女子大学が取り組むことにへの期待は大きい。

小中連携コーディネータを任せられるほどの人材は、学年主任や研究主任など、学校経営の要となることができる人材でもある。そのため、小中連携教育コーディネータの必要性については理解されるが、実際に学校にそのポストを設置し、どのような人材を充てルカは校長の判断である。

現状としては、小中一貫、小中連携を実施している市町村は一部であり、現在、沖縄県全体にコーディネータに対するニーズやウォンツがどの程度あるかは未確認である。小中連携の意義は理解されているため、校内にそれを推進できる人材がいるとなれば、ポストを設けて推進しようとする校長も増えていくと考えられる。むしろ、人材育成を先に進める事で、小中連携の推進を後押しすると考えることもできる。

協議2 小中連携教育コーディネータのカリキュラムと資質能力について

「小中連携教育コーディネータのカリキュラム」は、以下の4つの観点により構成しています。

そして、「小中連携教育コーディネータの資質能力」のは以下の6つのカテゴリーにより構成しています。

そこで、このカリキュラム並びに、資質能力が、「小中連携教育コーディネータ」として適切であるかについて、委員のご意見等をお聞かせください。

【資料】

- ・小中連携教育コーディネータ概論（p.8-9）
 - 第2講 小中連携教育コーディネータ
 - 3. 小中連携教育コーディネータ養成カリキュラム
- ・小中連携教育コーディネータ概論（p.11-13）
 - 第2講 小中連携教育コーディネータ
 - 3. 小中連携教育コーディネータに求められる資質能力の構造化

【回答】

協議2 小中連携教育コーディネータのカリキュラムと資質能力について

協議3 小中連携教育コーディネータの科目内容について

岐阜女子大学が設定しているカリキュラムは先進的であり、これまで講義型の研修を受講することが多かった教職員が、テキストとオンラインを活用しながら自らに必要な資質能力を自ら取りに行くような学びを経験することにより、「受身」から「主体」へと転換され、いわゆる「学びの相似形」を実現するものとして大いに期待できる。できれば、本県の教員一人一人が、日々の業務を遂行する傍らで、このような学びを愉しみ、自らスキルアップするようであってほしいものである。以前は任意の教科研究会に所属して学ぶことも多かったが、本講座は一人でもできるし、時間は自分で管理できる。本講座を受講した方々には、このような学びの姿を同僚に見せ、学び方を学ぶものとして波及するよう期待したい。

あくまで私見であるが、これまでは、教師の資質・能力は職人技のようなものであり、尊敬する先輩に出会い、先輩のやり方を目で盗みながら、長い時間かけて自分なりの教師像を構築していくものであった。それには試行錯誤が必要であり、長い時間がかかるもの、それが当たり前だと思ってきた。しかし、現代では、囲碁や将棋のように古典的なもの

のであっても、A Iを活用し、新しい技法を取り入れて自己研鑽に励んでいる。教職の世界も同様に、テキストとオンラインの様な新しい技術を活用し、やりたいことを効率よく学び、空いた時間を自分を更に高める別のことに使うなどして多様に学ぶというふうに変わっていても良いのではないかと思います。若い先生方には、昔の研修や資質向上の取組の常識にとらわれず、このような学びに積極的にチャレンジしていただきたい。

小中連携教育コーディネータに求められる資質・能力として、コミュニケーション能力と、失敗から立ち上がるレジリエンスの能力や考え方を学ぶことを提案したい。

① コミュニケーション能力について

沖縄県では、小学校、中学校それぞれに求められる教師像や教員文化があり、小中の人事交流が少ない分、その違いは他県よりも顕著であるように思われる。中学校の教諭が小学校に転属して小中連携を推進するのは良いことではあるが、教員文化の異なる別の校種に飛び込むには勇気が要るであろう。まず、小学校の教員とうまくやっていけるかどうか不安を抱くものと考えられ、そのようなときに、どうコミュニケーションを取るか、少しでも知っておくと不安が和らぐと思われる。その際、小学校はどのように運営され、保護者や地域からどのようなことが求められているかを知っておくことも、コミュニケーションを助けるのではないかと思います。

実際にコーディネータとして活動する際は、関わっていく小学校の教諭の思いや考えを理解する必要がある。「このコーディネータはよく話を聞き、実現に向けて努力してくれる」というような信頼が得られなければ、知識があっても人はついてこない。コーディネータには、人に対する偏見や先入観を持たず、管理職や地域人材も含め、関係者と積極的に交流を図るというコミュニケーション能力や、校内の教師同士が互いにコミュニケーションしようとする雰囲気を作る能力を求めたい。

② レジリエンスの能力について

レジリエンスに係る能力は、コーディネーター本人にとっても、コーディネータと

して勤務している学校にとっても、求めたい資質・能力である。コーディネートを始めても、うまく運ばないことや失敗することもあるはずである。そのようなときに、自分を立て直し、試行錯誤しながら目的の達成に向け取り組み続けることができるか。

コーディネートする目的は、最終的には、学校の教育目標を達成し、児童生徒一人一人に「生きる力」を育成することであろう。その実現に向け、粘り強く取り組むことが求められる。コーディネートする側にとっても、コーディネートされる側にとっても、レジリエンスを発揮して目標達成に向けて取り組むことが求められる。よく言われ

る「リーダーシップ」の中に、このような能力が今後は含まれていく必要があるのではないかと考える。このように考えると、小中連携教育コーディネータに求められる資質・能力は、ミドルリーダーや、管理職に求められる資質・能力と重なりがあるに思われる。

小中連携教育コーディネータの役割は、校長の経営方針や学校教育目標を実現するための働きであるとも言える。校長の意を汲み、組織としての経営について理解しなければ、コーディネータは活躍できない。コーディネータ養成科目に、学校経営やマネジメントに関することがあっても良いのではないか。

協議3 小中連携教育コーディネータ養成の科目内容について

小中連携教育コーディネータ養成における実施科目の内容について、委員のご意見等をお聞かせください。

【資料】

- ・小中連携教育コーディネータ概論（p.9--13）

第2講 小中連携教育コーディネータ

小中連携教育コーディネータ養成コース

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力の構造化

<作成科目のテキスト（5科目）>

- ・小中連携教育コーディネータ概論 テキスト
- ・初等教科教育法（音楽） テキスト
- ・初等教科教育法（理科） テキスト
- ・生徒指導論（進路指導を含む） テキスト
- ・教育相談Ⅱ（カウンセリングを含む） テキスト

※テキストは、後日送付させていただきます。

【ご回答】

協議4 その他

その他、お気づきの点がございましたら、委員の皆様のご意見をお聞かせください。

【回答】

先述のとおり、岐阜女子大学のカリキュラムは先進的であり、児童生徒に主体的に学ことを求めるのであれば、教師もこのような学びを経験し、これからの時代の学びを実感を持って理解する必要がある。

しかし、学校現場を含め、なかなか授業観や学力観、学習観が転換していかない。その原因のひとつに、管理職を目指すようなミドルリーダ層の学びが変わっていないということが挙げられると感じる。

岐阜女子大学への要望として、小中連携教育コーディネータのカリキュラムを応用して、管理職や、管理職を目指すミドルリーダーが教育を学び直すとともに、学校経営や人材育成等のマネジメントについて学ぶような、有料の講座を設けることはできないか。その際、島嶼県であるという本県の弱みを克服するために、他県の先生とのオンライン交流があると更に良いと思う。是非、御一考いただきたい。